



ENEOS

Jera

2020年8月25日

ENEOS株式会社
株式会社JERA

東京大井水素ステーションの開所について

ENEOS株式会社（社長：大田 勝幸、以下「ENEOS」）と株式会社JERA（社長：小野田 聡、以下「JERA」）は、本日、水素の利用普及を促進する共同プロジェクトとして、JERAが運営する大井火力発電所敷地内に、「東京大井水素ステーション（東京都品川区）」を開所いたしました。

本ステーションの開所に向けて、JERAが大井火力発電所の敷地を提供するとともに、水素の原料である都市ガスの配管などを整備し、ENEOSが都市ガス改質型の水素製造装置を有する（オンサイト方式）商用水素ステーションを建設いたしました。運営は、全国で42箇所[※]の商用水素ステーションを展開するENEOSが行います。

本ステーションでは、ENEOSやJERA等が出資する「扇島都市ガス供給株式会社」の都市ガスから水素を製造し、乗用車タイプの燃料電池自動車や、東京都が導入を推進している燃料電池バスに水素を供給します。また、敷地内には出荷設備も有しており、首都圏にあるENEOSの水素ステーションにも水素を出荷してまいります。さらに、本ステーションは、大都市東京の経済を支える物流の中心に立地していることから、将来的には、燃料電池トラックへの水素供給拠点の役割も担えるものと考えております。

両社は今後も、それぞれが保有するリソースやノウハウを活用しながら、水素事業を始めとした幅広い分野で協力関係を模索していくことで、エネルギーの安定供給および低炭素社会の実現に向けて貢献してまいります。

※8月25日時点。東京大井水素ステーション含む

<東京大井水素ステーション概要>

開所日	2020年8月25日
所在地	東京都品川区八潮1-2-2（大井火力発電所敷地内）
運営者	株式会社ENEOS水素サプライ&サービス
敷地面積	約2,900m ² （879坪）
供給方式	オンサイト方式（水素製造装置をステーション内に設置） 水素製造能力：600Nm ³ /h

<ステーション外観>



<出荷設備>



<FCバスへの充填風景>



＜東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会車両への「ENEOS水素」供給について＞

東京 2020 オリンピック・パラリンピックゴールドパートナー（石油・ガス・水素・電気供給）であるENEOSは、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会において、「東京大井水素ステーション」をはじめとする7か所の水素ステーションを中心に、大会用車両のFCVに「ENEOS水素※」を供給いたします。

※「ENEOS水素」は東京 2020 オフィシャル水素です。

◆ 大会用車両に水素を供給する当社水素ステーション（7カ所）

	ステーション名称	所在地
①	Dr. Drive セルフ潮見公園店 （福島県内で製造した水素の販売拠点）	東京都江東区
②	東京目黒水素ステーション	東京都品川区
③	横浜綱島水素ステーション	神奈川県横浜市港北区
④	千葉幕張水素ステーション	千葉県千葉市美浜区
⑤	東京晴海水素ステーション（10月開所予定）	東京都中央区
⑥	東京大井水素ステーション	東京都品川区
⑦	東京高輪ゲートウェイ水素ステーション（8月27日開所予定）	東京都港区

※大会専用車両の運行ルート等によっては、上記以外の当社水素ステーションでも供給いたします。

◆ 当社が大会用車両に供給する水素について

当社が大会用車両に供給する水素の一部には、復興の地・福島県の「福島水素エネルギー研究フィールド」（福島県浪江町）において製造される再生可能エネルギー由来の水素を利用することで、東京 2020 大会を盛り上げていきます。



東京2020ゴールドパートナー
（石油・ガス・水素・電気供給）

とどけ! 熱いエネルギー ENEOS